

サービスラーニングを通して1年間で身につけたこと

活動先：NPO 法人 ざりがにクラブ
クラス：原田 正樹 先生

1. 自分の成長と気づき

私はサービスラーニングの活動を行うまで自分で考えて行事を行うことはしたことが無かった。昨年サービスラーニングというものの存在を知った時、夏休みに自分たちで考えたことをNPOで活動することが楽しそうだと思ってサービスラーニングクラスを希望した。実際に4月になってサービスラーニングの話聞くようになり、楽しいことだけではないのかと、不安が募っていった。楽しいだけではなく、もっと深く考えなければならぬのだとわかった。

4月には活動先に事前訪問に行った。その時はあまり事前学習を行わずに活動先に行ってしまったため、活動先の方に質問はないかと聞かれた時に調べればわかるようなことしか聞けなかった。前々から事前学習は大切だと言われていたが、この時ほど事前学習が大切だと思ったことはなかった。事前学習していれば話も膨らむ。それ以来、私は何事にも事前に学習していくようになった。事前学習を行っていれば自分が何をわかっていないかを把握でき、また何が知りたいかを明確にすることが出来る。事前学習は自分に足りないことを補うこともできるのだとわかった。

NPOバスツアーでは、実際の活動先ではないNPOに行った。詳しくは知らないところであったが、それぞれのNPOを見学しているとNPOごとの特色が見えてきた。今までの私なら、「こういうことをしているんだ」といった薄っぺらいことしか考えられなかったと思うが、1ヶ月の間で聞いたことを踏まえた状態で行ったので、それぞれのNPOが何を大切にしている、そこだからできるということを理解することができた。しかし、まだNPOの利用者さんとは直接関わることはできなかった。私には積極性が足りないのだとわかった。

夏の活動プランは、事前訪問で見えてきたことや聞いたことを踏まえて考えていたため、もしかしたら出来ないかもしれないというマイナス思考に考えてしまっていた。自分たちで行わなければならないため、大きなことは避けなければならないと思っていた。しかし、活動先の方にやりたいことを素直に言ってみたら、活動先の方もなかなか行えずにいたものであったため、快く引き受けてくれた。その時、自分たちだけで行うのではないと思った。活動先の方もいるし、他にも手伝ってくれる人がいる。協同作業というのは、このようなことだと思った。頭で考えては何も伝わらない。素直に何がしたいのかを言葉にすることで、実現することもあるのだと思った。

実際の活動は、思っていたよりも楽しかった。子どもたちと馴染めるか初日は不安でいっぱいだったが、いざ活動先に行って自己紹介をすると、ちゃんとニックネームで呼んでくれた。小学生との関わりはあまり無かったため、何を話したらいいのか戸惑っていた時も、子どもたちから話しかけてくれたので、そこまで不安になることもなかったのだと安

心した。

毎回の活動の記録は書くのが大変だった。活動中は何も考えず必死だったため、家に帰ってから何を書いたらいいのか困った。活動中に考えることはあるが、メモ出来る状況ではなかったため覚えておく以外に方法が無く、大きなことは覚えているが小さな変化に気づいても忘れてしまうことが多かった。

活動後はふりかえりをしたが、ふりかえればふりかえるほど、もっとこうすれば良かった、というような反省点ばかり出てきた。活動前にも積極的にならなければならないと思っていたが、活動後にも同じことを考えてしまった。6日間の活動ではやはり変わらないのかと悲しくなったが、それ以上に楽しいことも大変なことも体験でき、自分なりに大きく変わったのではないかと思う。

共同研究では私は少し視点を変えてみた。活動が児童だったため関わりが無かった高齢者のことを知りたいと思い、高齢者のことを研究した。調べていくと本当に知らないことばかりで「こういう考え方があるんだ」ということばかりで新しい発見しかなかった。高齢者に興味はあったが、知らないことが多かったため、新鮮に受けることが出来た。調べれば調べるほど知りたくなっていった。なかなか機会が無かったことであるため、知ることが楽しくなっていた。

2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

活動中、私自身は活動先近辺の方との関わりがほとんどなかった。周りは住宅地であったが、移動はあっても近辺で遊ぶということがなかったため、近辺の方はほとんど知らないまま活動を終えてしまった。駅から活動先に向かう途中で会った人にしか挨拶出来ないのも、もっと関わりが持てたら活動の幅も広がったのかと思う。

しかし、近くの児童館や小学校などと連携を取っているため、ざりがにクラブ独自の行事であっても学童に通ってきている子だけではなく他にも誘って行事が楽しめる。私たちが実際に活動したざりがにクラブの記念行事では東海市の教育委員会の後援を得ていたため、ざりがにクラブを知らない子もたくさん足を運べる状態であった。そのようにざりがにクラブを広めていけたらいいのではないかと思う。

地域との関わりを広めるために、職員だけではなく子どもたちも何か行動を起こす必要があるのではないかと思う。職員が動くのは裏の仕事で、一部の人にしかわからないということも多いだろう。しかし、実際に通っている子どもたちが地域の人と関わりを持てばたくさんの方が知ることができる。ざりがにクラブが一体どんな活動をしているのか、地域の人に知ってもらうことは今後のざりがにクラブにとっては重要になっていくのではないかと私は考える。

3. おわりに

今回サービスマンでざりがにクラブの方には本当にお世話になりました。実際に触れ合わなければわからないことをたくさんさせていただき、自分の今までの考え方などを改める機会になりました。本当にありがとうございました。